



めざせ!! 地域のヒーロー 消防団

問 防災課地域防災係
☎(95)9875

第6分団 分団長 亀山洋光さん

第6分団を紹介します



私の消防団に対する入団前のイメージと今の実際

入団前は、火事現場で火消しを手伝うくらいで、そうそう火事なんて無くて、やることもないだろうから、集まって遊んでいるだけなんじゃないか。飲酒や喫煙も迫られたりするのかな。そもそも時間のある人や特別な人がやってるのかな。とっていました。

しかし、活動を始めてみて、今では消防団に対するイメージは大きく変わりました。

消防団が活躍するのは火災だけではなく、水災害時には、水門の開閉や、土のうの作成や積み上げ、冠水してしまう時は、ボートでの救出などの役割があること。そのために様々な資機材の使い方や点検方法を知ることができました。

飲酒によるアルコールハラスメント（飲酒の強要）はありませんし、受動喫煙を防止するために、会館内は禁煙になっており、明確に分煙して、喫煙をたしなむ人であっても、お互いが不快にならないように配慮されてます。そして、様々な団員がいます。6分団では10代の学生、20代の社会人はもちろん、30代40代の家庭をもつ社会人も活躍しています。決して暇なわけではなく、仕事で残業をしていたり、家庭での時間があるなか、時間を工夫し、捻出して、訓練や点検活動に参加しています。

私の理想として、年齢や性別、職業に関係なく、だれもが消防団に参加でき、1人でも多くの方が消防団を卒業することで、有事の際に自分と大切な家族や、仲間を助けられる人が増えれば、と願っています。

最後に、消防団員の仲間はみんな良い人で、一緒に活動する時間は結構楽しいです。



碧南の歴史へのいざない

問 文化財課内
市史資料調査室
☎(41)4566

No.75 鷺塚湊と矢作川(1)

現在の鷺塚町の風景からは、かつてここに三河代官所から五箇所湊に選定されるほどの大きな湊があり、この湊から幕府領の年貢米を積んだ廻船が江戸へ向かったとは想像できないと思われます。しかし、多くの文献・古文書・村絵図には、鷺塚に三河でも屈指の湊があったことが書かれています。

室町時代、浄土真宗本願寺八世蓮如は、鷺塚に真宗を広める拠点のお寺（鷺塚御坊本宗寺）を創建しています。蓮如は、尾張、知多方面から船で来る参詣人のことを考えて、波静かな湾の奥にある鷺塚の地を選んだと伝えられています。

戦国時代には谷宗牧という連歌師が『東国紀行』のなかで、鷺塚のお寺を見て回り、対岸の吉良のながめはとても美しいと書いています。また、信長の家臣であった太田牛一は『信長公記』のなかで、大浜、鷺塚は海辺にあって人が多く、財力のある重要な場所であると書いています。

鷺塚湊が三河においてより重要な湊へと飛躍したのは、慶長9年（1604）に矢作川が鷺塚方面に開削されたからです。三河にある幕府領の年貢米は、鷺塚湊で検査を受け、江戸へ輸送されることが決められていました。三河の国でこの指定を受けた湊は、豊川流域では、古代から三河国府の湊として栄えてきた御馬湊と矢作川流域では鷺塚湊の二つだけでした（『刈谷町庄屋留帳』）。

年貢米の品質検査は、竹を斜めに切ったものを米俵に刺して少量の米を取りだし行われました。

この検査を代々幕府から任されたのは、鷺塚湊の廻船問屋片山八次郎でした。この片山家当主は代々八次郎の名を継いでいきました（『鷺塚小学校の百年』）。

